



# りそな銀行アジアニュース

平成 20 年 7 月 4 日  
りそな銀行 法人ソリューション営業部 国際業務室

【上海】

## 「中国におけるガソリン等の値上げについて」

国際原油価額の高騰を受け、中国国家発展改革委員会は中国国内のガソリン・軽油等の需給バランスを安定させるため、6月20日より中国国内でのガソリン等の燃料価額調整(値上げ)を発表しました。昨年11月以来の値上げとなり、また上げ幅は数年来最高となっています。

### 【調整後の上海小売価額】

(1元=約15.5円)

品名	調整前(元/リットル)	調整後(元/リットル)	値上げ幅(%)	
軽油	5.12	6.03	17.8	
ガソリン	90号	4.77	5.57	16.8
	93号	5.19	6.05	16.6
	97号	5.51	6.42	16.5
	98号	6.06	7.00	15.5

※「90号」などの号数:ガソリンのアンチノック性能指数を示すもので、日本の「オクタン価」に相当します。

※中国の燃料価額は政府の規制下にあり、また、各地域において若干の違いがあります。上記は上海の小売価額ですが、例えば、上海で6.05元の93号ガソリンは、江蘇省、浙江省では5.97元、6.00元となっています。

### 【中国の燃料価額制度、価額調整による影響等】

- 中国の燃料製造・販売は、大手3社[中国石油、中国石油化学(中国石化)、中国海洋石油(中国海油)]の独占状態になっており、海外からの原油輸入、中国国内での石油開発、ガソリンの製造・販売は実質的に3社によってコントロールされています。
- 国際原油価額相場は、08年6月26日に1バレル140米ドルを突破するなど高騰を続ける一方、中国の燃料価額は政府により据置かれてきました。政府が国内小売価額を規制しているため、国際原油価額が高騰しても、国内の石油精製業者(主に上記3社)は、国際原油価額高騰によるコスト増を小売価額に転嫁できないという状況です。
- それに伴い、中国政府は上記大手3社に対し相応の資金援助を行っていますが、国際原油価額と国内小売価額のギャップが更に広がったため、政府資金援助が不十分な状態となり、これら大手3社を中心とした中国国内の燃料供給が低下するという事態を招いた、というのが燃料価額調整の背景と言えます。
- 今般の燃料価額調整は、五輪大会前での国内燃料供給不足緩和が主目的であると考えられていますが、一方で、ガソリン価額等の上昇は中国国内のインフレに直結する問題でもあり、燃料価額調整に対する政府の難しい立場が伺えます。
- なお今回、燃料価額は調整されましたが、国民生活に影響が大きい部分、例えば公共交通機関(電車、地下鉄、バス等)の運賃等は据置されました。しかし、燃料価額調整後も中国の燃料価額と国際原油価額の乖離は大きく、北京五輪大会後、さらなる価額調整が行われる可能性は否定できません。

以上

照会先:法人ソリューション営業部 国際業務室 (東京)電話 03-5223-5337  
(大阪)電話 06-6268-6357

当資料は、信頼できると思われる情報に基づいて作成しておりますが、弊行がその正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前の連絡なしに変更されることもあります。当資料は情報提供のみを目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、お客様御自身でご判断下さいますようお願い致します。 \*禁無断転載